

## 30 車両

【関連章第7章13】

### 事例 「走行中の乗用車のエンジンルーム内から出火した火災」

出火時分 10月 5時ごろ

用途等 普通乗用車

被害状況 車両全焼1台等

#### 概要

この火災は、高速道路において乗用車のエンジンルームから出火したものです。

出火原因は、エンジンオイルの不適切な管理により、3番気筒のコンロッドが焼き付けを起こし破断した結果、シリンダブロックが破壊され、漏洩したエンジンオイルが排気管に付着して出火したものです。

運転手は高速道路を走行中、前方のボンネットから白煙が噴き出してきたため路肩に停車させると、白煙が黒煙に変わり、破裂音とともに炎が立ち上がるのを発見しました。同乗していた同僚は携帯電話で110番通報をしています。

通報で駆け付けた高速道路を管理する職員が、粉末消火器2本を使用して初期消火を行いました。火の勢いは収まりませんでした。

#### 教訓等

出火した車両は平成19年式の乗用車で、仕事で使用するため1年前に中古で購入したものです。

運転手は出火の数日前にエンジンルーム内から「カラカラ」という金属が当たるような異音を聞き、不安に思いましたが業者によるエンジンオイルのみの交換で、その後も使用を続けており出火当日も異音は聞こえていたとのことでした。

使用頻度の多い車両は、エンジンオイルの劣化が早い傾向にあり、定期的にオイル交換を含めて細かな点検整備を行い、火災の発生を未然に防ぎましょう。



写真 30-1 車両の焼損状況



写真 30-2 コンロッドとメタルの破損状況



写真 30-3 排気管の状況